

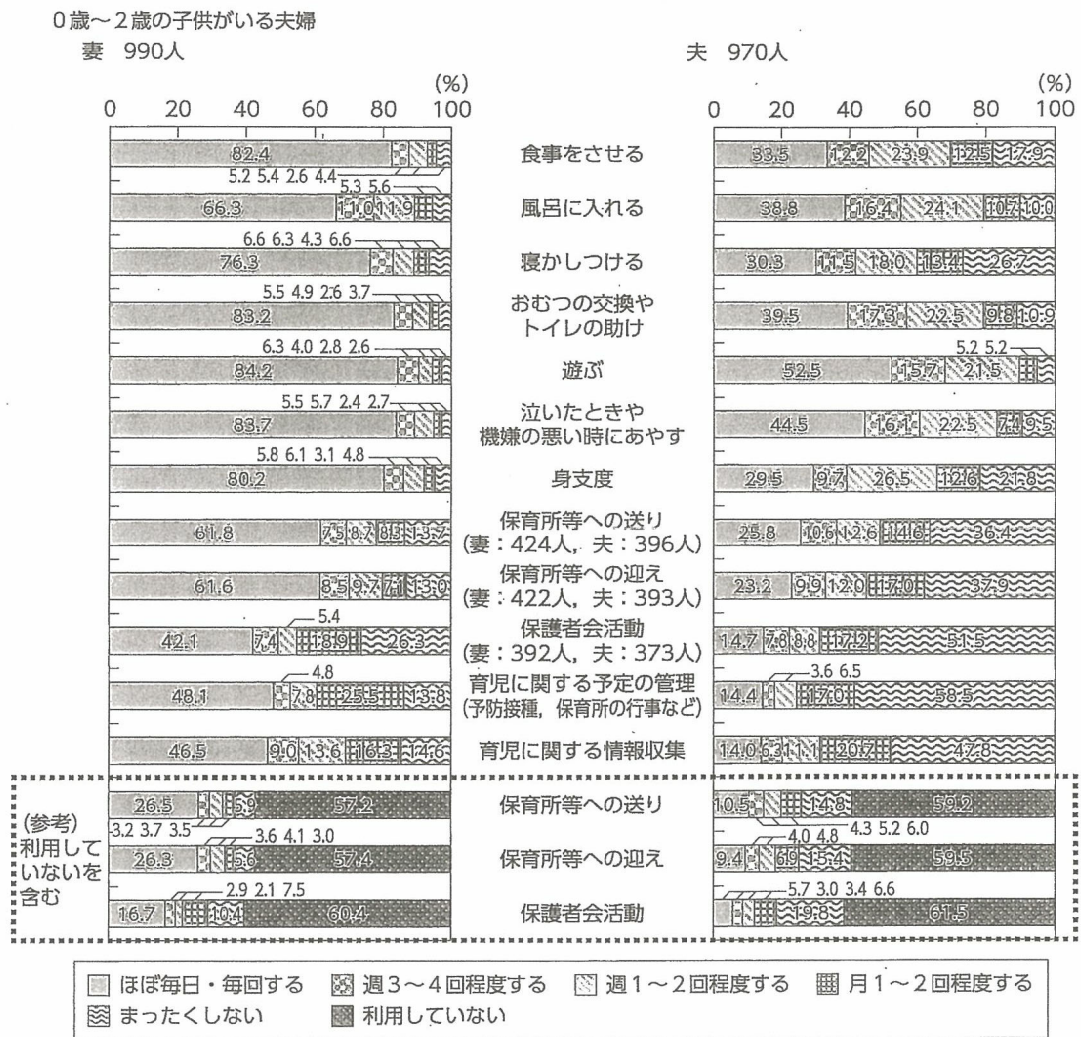
令和 3 年度 学校推薦型選抜・公募制問題用紙（小論文）

家政学部 児童学科 児童学専攻

男性の育児参加と仕事等の両立に向け、国は「イクメンプロジェクト」等を推進し、近年、男性の育児休業取得率は上昇傾向にあります。しかし、令和2年度『男女共同参画白書』（内閣府）には、以下のような調査結果が示されています。

そこで、図1「夫婦別に見た主な育児の実施頻度（妻・夫）」の内容について、最初に気づいた点を要約したうえで、どのようにしたら男性の育児参加等を含む男女共同参画社会を具体化することができるのか、あなた自身の考えを800字以内で論じてください。

図1. 夫婦別に見た主な育児の実施頻度（妻・夫）



- (備考) 1. 「家事等と仕事のバランスに関する調査」(令和元年度内閣府委託調査・株式会社リベルタス・コンサルティング)より作成。
 2. 0歳～2歳の子供がいる夫婦それぞれに「(各育児項目について)お子さんの世話をどの程度していますか」と質問し、図表に掲げた選択肢で回答を得たもの。
 3. 「子供」は末子の年齢により区分した。
 4. 「保育所等への送り」「保育所等への迎え」「保護者会活動」は利用していないを除いた集計。